

編輯室の内外

昭和六年もこゝ一と月で暮れんとする。

此歳は國道工事を政府が直營し、した紀念

すべき歳であつたと同時に、財界の不況を物語る歳であつた。日支の紛争は落付く先が判らない、聯盟の雲行も不明の裡に歳を越さねばならぬ、何だか爲すへきを爲さずして遙くの感が深い。

明年度豫算も漸く危が附いたやうだ、無理に豫算の天引をやつて歳入との辻接を合すだけが政府の財政方針らしい、之でも尙赤字が出ると言ふ。減債基金の繰入を中止しても尙起債に依るやら新税を創設せなればならぬと言ふ仕末、非募債主義やら廢減税の一枚看板は吹き飛ばされたやうな感、之でも民政黨の内閣ぢやと意張つてゐるやうもあり悲しくもある。去年の會議

る政治家の心根が判らない。

新税の事なら例のガソリン税、年額七、八

百萬圓に上ると言はれてゐる、之を徵收し

て年額三百萬圓足らずの金を國府縣道の維持費に分配せむと策す。實に驚いた愚策。

課稅物體は主として道路を使用する自動車の消費に依るもの、短的に言はゞ道路であつてのガソリン税、夫れを徵收しながら半額

にも足らない端た金を、地方に交付すると

は、如何に奇辨を弄しても欺瞞政治たるを免れない。大藏省には各國の自動車税やガソリン税に關する調査は出來上つてゐる筈

モー少し大臣を教育して正常の政治を爲さしむる必要があらう。

本誌 定 價 五 十 錢
一 ケ 年 分 金 六 圓

では道路事業が救濟事業としての適性を持つと言つた政府、此歳は河川港灣の事業を起すから道路費を削減すと言ふ。是程出鱈目の政治はあるまい。

内外の政治行き詰り、財界は不況、人心不安、等々と忌むべき歴史を持つ昭和六年よ早く過ぎ。

| | |
|---|--|
| 東京市麹町區大手町一丁目内務省内 發行所 編輯者 印 刷 者 | 東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六 小島 常磐印刷所 堀江關武 |
| 東京市小石川區諏訪町五六 | |